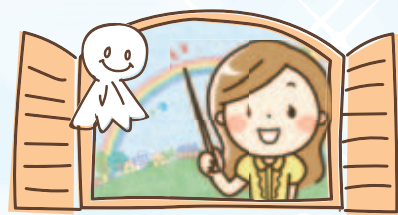


天気のみカタ

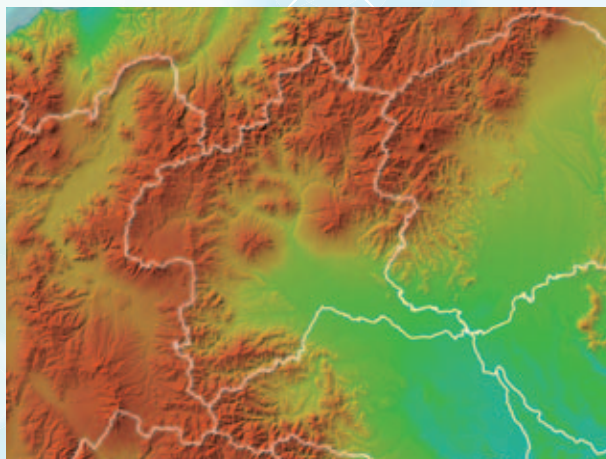
群馬の冬は豪雪とからっ風



にいむら みさと
新村 美里

気象予報士・防災士
フリーアナウンサー
群馬県出身。NHKのキャスター・リポーターとして長野・佐賀放送局に勤務。その後、2018年3月に気象予報士を取得。東京で、フリーアナウンサーとしてラジオのニュースアナウンサーやリポーターを経て、現在、NHK前橋放送局「ほっとぐんま630」の気象キャスターを担当。

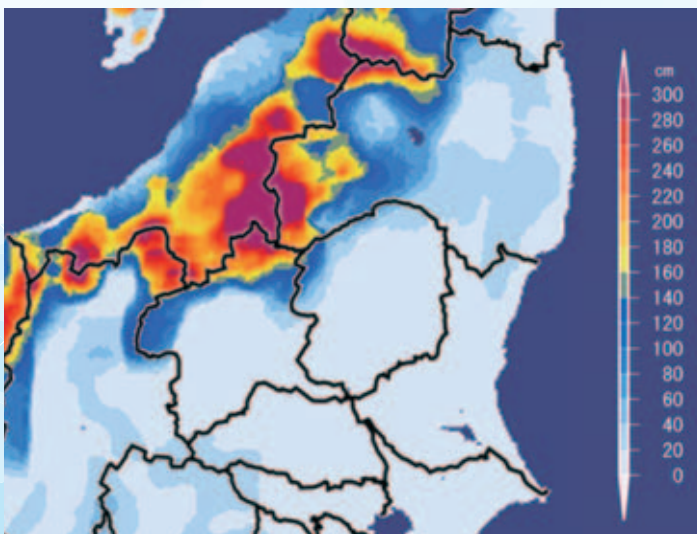
今年の6月25日、群馬県で観測された記録的な暑さがニュースになりました。伊勢崎市で40.2度、6月の観測史上で全国初の40度超えの記録です。これまで「日本一暑い」という話題になると群馬県の名前が聞



群馬県の地形 (国土地理院)

こえてくるため、群馬県は暑いところ、というイメージを持っている方も多いのではないのでしょうか。
一方で、あまり知られていないのが群馬の冬です。県外から来る人から「こんなに寒いと思っていなかった」と聞くことも多く、あまり冬のイメージが無いのかもしれない。今回は群馬県の冬についてご紹介しましょう。

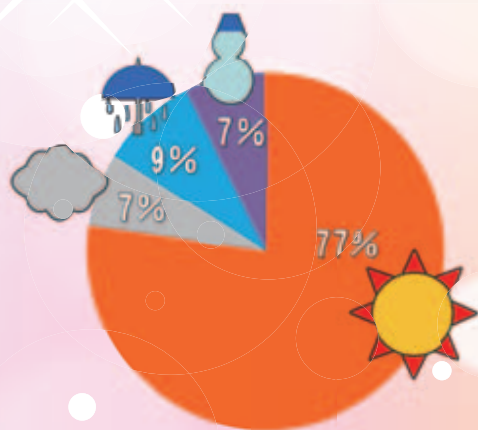
まず、群馬県はしっかりと雪が降ります。県の南部は関東平野ですが、北部のほとんどは山地です。冬場は南部と北部で大きく天気が変わり、西高東低の冬型の気圧配置の影響を受けると、北部では北陸と同様に雪の降りやすい天気が続きます。県内最北端のアメダス設置場所である藤原では、最も雪の多い平年2月の最深積雪は202cmと、豪雪地帯である北陸と並ぶほどです。



2月の平年の最深積雪 (気象庁)

のため北部には多くのスキー場があり、冬はウィンタースポーツを楽しめます。ちなみに、全国有数の温泉観光地である草津も北部に属しています。雪も降りますし、平年1月、2月は最高気温が0度前後と寒いため、冬場に來られる際はしっかりと準備をお願いします!

では、南部はどうでしょうか。前橋の平年12月のデータを見てみると、最高気温の平均は11.5度、最低気温は1.9度と氷点下になることはあまりなく、1か月の降水量はなんと23.8mmと、ほとんど雨が降りません。天気の出現率では晴れの割合は8割前後で、日差しの届く日が多くなっています。一見すると寒さとはあまり縁がないように思えますが、実際住んでみると体感温度の低さに驚かされます。



12月の前橋の天気出現率 (気象庁)

理由の一つは「からっ風」です。「上州名物、かかあ天下とからっ風」という言葉を聞いたことのある方もいるかもしれません。

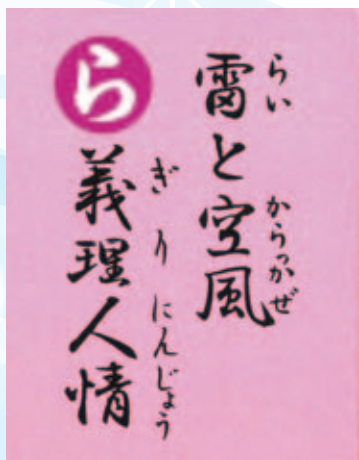
また、群馬県には「上毛かるた」という県民ならだれでも知っている郷土かるたがありますが、その「ら」の札では「雷と空風 義理人情」と読まれていて、大変なじみ深いものです。冬型の気圧配置の際、北陸で雪を降らせたあとに県内にやってくる吹きおろしの風は、瞬間的には風速15〜20m/sほどにもなり、風に向かって歩けなくなるほど。自転車は倒れ、外に置いてある軽いものは道路へ転がっていき、外にいれば髪はぐちゃぐちゃになります。からっ風というだけあって湿度も低く、体感温度はぐっと低くなります。風速1mで気温が1度下がる感覚と言われているため、群馬で過ごす際は実際の気温から10度くらい低い体感気温となることは覚悟しておいた方がいいでしょう。

また、「底冷え」も油断できません。晴れの日が多いということは、地面の熱がどんどん逃げる「放射冷却」が起きやすいということでもあります。朝晩と日中の気温差が10度以上になることが多く、体にこたえます。布団の暖かさも相まって、朝の起床が辛い県民は多いのではないのでしょうか(私もその一人です)。

今年の冬は平年並みか平年より寒くな



上毛かるた「ら」の札



ることが予想されています。群馬はしっかりと寒いので、お越しの際は風を通しにくいコートで、寒さ対策をしっかりと行うようにしてくださいね。

